

コンピューターも活用

車両は近代技術の粋を取り入れ、長さ一八メートル、一四〇人乗りのボギー客車で、当面は三両編成で運行することを考えている。線路側に立っている信号機はなくし、運転席に信号があらわれる車内信号方式とし、自動列車制御装置（将来自動列車運転方式に移行可能）により、自動的にスピードと先行列車との距離がコントロールできて安全がはかれるようにする。また列車はコントロールセンターにおいて、その運転状況がひと目でわかり、その指令はただちに運転中の列車に届くような無線装置も組み込まれる。変電所は二・五キロメートルに一カ所必要となるが、これも無人化してコントロールセンターで制御できる方式とする。また将来の経営の安定化をはかるため、安全で確実な省力装置、すなわち出改札の自動化などをはじめとする駅務・運転・集計・管理などの電算化の徹底を考えている。駅舎の意匠などについては、明るく親しみやすいものにするように、専門デザイナーの意見をきいて真剣に取り組んでいる。

5 高速道路

△六大事業 その五▽

交通量の1.5は高速道路で

横浜市の自動車台数は、昭和三十年に約二万六、〇〇〇台あったが、四十四年には約一〇倍の二五万台になった。さらに、六十年には一〇〇万台になるとみこまれている。したがって、自動車交通量もそれに応じて増加する。交通事故の危険性も増大する。道路局の予測によると、六十年には、現在の約三倍の自動車交通量をさばかなければならない。

このようにふえ続ける交通量をさばき、市民、ことに歩行者の安全をまもるために平面道路の整備のほか、さらに高速道路網の整備をしなければならなくなった。たんに市内を通過

するだけの車や、港や工場地帯から発生する大型貨物自動車などは、できるだけ市内の平面道路に混入させないで、高速道路を使ってもらった方がより機能的で安全だからである。

昭和六十年の全自動車交通量の五分の一は、高速道路で処理する予定になっている。

高速道路を利用するのは、とくに緊急を要し、比較的走行距離の長い自動車交通といえる。四十二年の首都高速道路起終点調査によると、高速道路を利用した車が高速道路を走った距離は、平均一キロメートルである。横浜市の自動車交通の平均走行距離は五キロメートル（四十年の交通調査）であるから、かりにこの二倍以上の距離を走る自動車が一台高速道路を利用すれば、平面道路には平均走行距離をゆく自動車二台分の余裕ができることになる。

分断された市街地を結ぶ

横浜市の高速道路計画には、東京都や大阪市にはみられない地理的特殊性がある。それは、横浜市がどぼこの多い丘陵都市であるということである。歴史的に横浜の発達をみても、丘陵に囲まれた狭い平地と、港湾に面した臨海部がまず都市

化された。それが現在の中区・西区の横浜港に面した都心部であり、鶴見区・南区・港北区・戸塚区・金沢区・保土ヶ谷区の比較的人口の集中した地域である。

この地域には鉄道が建設され、駅を中心として人口が集中し、商工業施設が発達した。しかし、それ以外の地域は丘陵地帯であり、自然の地形にはばまれてなかなか発達しなかった。

ところが、東京への通勤圏内に位置して住宅地としては適当と思われる丘陵地を残している横浜は、最近では毎年一〇万人にもおよぶ人口がふえ続けている。この人口の集中に、モーターゼーションの進行が加わって、自動車の交通量はますますふえてきた。したがって、道路の必要性はますます高まっている。幹線道路網・補助幹線道路網の整備を既成市街地内でおこなうことは非常にむずかしいが、既成市街地間、住宅地と既成市街地を結ぶ幹線道路はぜひとも必要な路線といえる。幹線道路を平面道路で整備することができないならば、高速道路で整備する必要がある。丘陵によって分断された市街地を高速道路で結び、比較的交通量の少ない補助幹線道路へインターチェンジで結びつけることは、幹線道路網の整備の遅れている横浜市にとっては、非常に有効な手段といえる。

現在横浜市内で使われている高速道路は、横浜新道・第三京浜・東名高速道路・大和バイパス・横浜羽田空港線の五路線で、総延長は四二キロメートルにおよぶ。五路線の役割はつぎの通りである。

横浜新道 国道一号線の横浜市都心部のバイパスとして建設され、神奈川区、鶴見区と戸塚区以遠地域への通過交通をさばいている。

第三京浜道路 東京・横浜間の交通の処理を主目的として、港北区と湘南方向への通過交通もさばいている。

東名高速道路 大都市間交通を処理する国家的規模の高速道路であり、横浜と東京、名古屋、関西方面を結ぶ長距離交通を処理している。

大和バイパス 横浜市と町田市を結び、神奈川県内陸部方面への交通を処理している。

横浜羽田空港線(Ⅰ期) 都市内高速道路網の一環であり、横浜市都心部、臨海部を通過して、都市内交通をさばいている。

表 2-3 横浜市内高速道路供用路線一覧表

路線名	車線数	延長 (km)	供用開始年月日	利用台数 (台/日)
横浜新道	4	9.9	昭和34年10月	48,111
第三京浜	6	10.8	40年12月	63,486
東名高速道路	6	12.7	43年4月	43,856
大和バイパス	4	2.4	43年4月	約 10,000
横浜羽田空港線(Ⅰ期)	4	6.3	43年7月	39,599
合計		42.1		

注: 1 利用台数は昭和45年1月現在
2 道路局高速道路課調べ

今後七年で五路線を

横浜市内における高速道路建設事業の現況は、五路線が計画決定済みおよび建設中である。これらが今後七年間に建設を終る予定の路線であり、総延長四二・一キロメートルとなる。おもなルートと役割はつぎの通りである。

横浜羽田空港線(Ⅱ期) 横浜羽田空港線(Ⅰ期)の延長路線である。西区・中区の都心部を通って、高島町～桜木町間の平面道路の交通混雑を解消、都心部と横浜港を東京方面へ結ぶものである。

市道高速一号線 横浜羽田空港線から横浜駅付近でわかれ、第三京浜道路に接続して都心部と結ぶ。この路線が開通すれば、浅間下交差点をはじめとする横浜駅西口付近の平面道路の混雑が解消される予定である。

市道高速二号線 都心部で横浜羽田空港線からわかれ、保土ヶ谷区権太坂付近で保土ヶ谷バイパスや南横浜バイパスにつながる。横浜市高速道路網の中心となる路線である。

保土ヶ谷バイパス・南横浜バイパス 国道一六号線のバイパスとして、建設省と日本道路公団で建設中の高速道路である。現在計画中の市道高速二号線と権太坂付近でつながり、

横浜市都心部と横浜港を、東名高速道路に結びつける役割をはたす。

以上の五路線が完成すれば、横浜地域のほとんどの地域が高速道路で結ばれることになり、市内の自動車交通上にはたす役割も格段に大きいばかりでなく、横浜市が近代的文化都市に発展するために大きく寄与するものと思われる。

最後に、現在計画中の高速道路についてふれておこう。計画中の道路は八路線であり、総延長は一〇六・一キロメートルである。全路線が完成すると、横浜市内の高速道路の総延長は一九〇・二キロメートルとなり、横浜市内の自動車交通量の約三〇パーセントを処理できる予定である。なお、路線ルートはつぎのとおりである。

市道高速三号線 都心部で二号線からわかれ、都心部と根岸磯子、金沢の臨海工業地帯とを結ぶものである。

東京湾環状道路 東京湾を取り囲む環状道路で、総延長一六〇キロメートル、幅五メートルないし一〇メートル内に、高速道路(設計速度一〇〇キロメートル毎時)六車線、準高速道路(設計速度八〇キロメートル毎時)四車線、平面道路四車線をふくむ大環状道路である。

表 2-4 横浜市高速道路計画の現況

項目	路線	横浜羽田空港線(Ⅰ期)	市道高速Ⅰ号線	市道高速Ⅱ号線	保土ヶ谷ハイパス	南横浜ハイパス
起点	中区山下町山下橋付近	西区高島2丁目 金港橋付近	中区元町3丁目	保土ヶ谷区藤塚町	金沢区朝比奈町	
終点	神奈川区千若町村雨橋 付近	神奈川区三ツ沢西 町第三京浜道路	保土ヶ谷区狩場 町	緑区長津田町	保土ヶ谷区藤塚町	
延長 (km)	6.4	2.6	6.6	9.2	17.3	
幅員 (m)	16.5~18.0	8.2 (2層構造)	18.0	30	25	
車線数	4	4	4	6	4	
事業費(億円)	350	85	504	186	213	
完成予定年	昭和49年	昭和48年	昭和52年	昭和49年	昭和49年	
出入口	東神奈川, 高島, 花園 橋, 山下	三ツ沢, 榑町	阪東橋, 南太田 永田町	上川井, 下川井, 本村, 南本宿, 今井	権太坂, 別所, 日野, 六ツ浦	
備考	千若町~高島2丁目・ 昭和41年12月計画決定. 高島2丁目~新山下町・ 昭和43年2月計画決定	昭和41年12月計画 決定	昭和45年10月計 画決定	工事中	工事中	

注：道路局高速道路課調べ

横羽線二期延伸線 横浜市の都心部を、将来東京湾環状道路に結びつける目的で、とりあえず平面道路を建設する。将来は四車線の高速度道路を平面道路内に建設して、横浜羽田空港線を東京湾環状道路に結ぶ予定である。

表 2—5 横浜市高速道路将来計画

路線名	車線数	延長(km)	起終点	備考
市道高速三号線	4	3.6	南区浦舟町～磯子区磯子町	計画中
東京湾環状道路	6	28.0	鶴見区扇島埋立地川崎市界～金沢六ツ浦町横須賀市界	〃
横羽線二期延伸線	4	1.5	中区山下町～中区新山下町	昭和45年度内計画決定の予定
第二横浜新道	4～6	17.0	港北区菅田町～戸塚区俣野町藤沢市界	計画中
東京厚木	4～6	13.0	港北区高田町川崎市界～瀬谷区宮沢町大和市界	〃
横浜県央	4	8.0	南区六ツ川町～戸塚区上飯田町	〃
横浜小田原	4	15.0	金沢区長浜～戸塚区原宿町	〃
第二外環	4	20.0	鶴見区大黒町ふ頭～鶴見区生麦町	〃
合計		106.1		